

2026年3月8日(日) 第1礼拝「御霊の思いはいのちと平安」ローマ8章5～6節

私たちの思いと御霊の思いは天と地の差があります。「わたしの思いはあなたがたの思いと異なり、わたしの道はあなたがたの道と異なる…天が地よりも高いように、わたしの道はあなたがたの道よりも高く、わたしの思いはあなたがたの思いよりも高い。」(イザヤ 55:8.9)

第一番目、十字架に対する思いです。人々は十字架を愚かだと考えますが、十字架は神様の救いの力だと神様は言われます。それは、十字架を通して私たちの罪が赦され、永遠のいのちの祝福を与えられるからです。「…彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために碎かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。」(イザヤ 53:5) 私たちは御子イエスの血によって贖われ、罪の赦しを受けました。永遠のいのちは罪の赦しから与えられるものです。神の豊かな恵みによって、それを信じる信仰によって、私たちは救われたのです。行いによるものではありません。

第二番目、聖霊様の思いに従うことです。従うとは信じることです。イエス様を信じる以前は、自分の思いが自分の主でした。自分の思いの通りに生き、自分で責任を負い、不安や恐れに苛まれ、孤児の状態でした。しかし、イエス様を信じると、自分の主がイエス様に替わり、神様の保護の中に入ります。母と胎児がへその緒で繋がっているように、私たちは神様と霊的に繋がり、聖霊の思いが自分の思いとなり、主の御声に従う者となるのです。御霊に従って生きる者は御霊に属することをひたすら考え、その御霊による思いはいのちと平安をもたらします。アンドリュー・ヒューバーマン師は神経科学者ですが、彼のところに薬物やアルコールやゲーム中毒の患者たちが相談に来ていました。彼らに心理治療を試みても、少しの変化はあっても、すぐに元に戻ってしまい、治りませんでした。いくら研究しても、治療は不可能という自分の限界にぶつかったそうです。そのような時、アンドリュー氏は、自分とは関係ない、上にある存在(Higher Power)を知りました。自分よりももっと偉大な存在、上から統治する力、後にそれがイエス・キリストだと分かったのですが、その方にゆだねた時、平安が来て、患者たちに驚くべき治癒が起こったそうです。習慣性のもの、中毒、深い悲しみ、トラウマなど、自分の力では癒せません。上におられ、自分よりもっと偉大で、圧倒的な力を持たれる方の統治に委ねる時、いのちと平安が与えられ、癒しが来るのです。

第三番目、神様の思いです。神様の思いを受ける方法は、ひれ伏し祈ることです。ひれ伏し祈るとは、自分の思いを放棄することです。出エジプト後、モーセは紅海の前に行き詰ってしまいました。その時、モーセがひれ伏し祈ると、「恐れず、しっかり立ち、主の救いを見なさい。だまっていなければならない。杖を上げ、手を海の上に差し伸ばしなさい。」という神様の声を聞きました。また、エレミヤが神様に叫び求めた時、自国のバビロン捕虜と、七十年後の民の帰還を告げられました。同様に私たちがひれ伏し祈り、また、叫び求めて祈るなら、神様によって私たちの知らない、理解を越えた大いなる事や新しい事が告げられ、荒野には道を、荒れ地には川が設けられます(エレミヤ 33:3、イザヤ 43:19)。